

事案名	茅ヶ崎市の事案（神奈川県 14 - 9）
フォローアップ調査資料	<ul style="list-style-type: none"> ・『朝日新聞』昭和58年6月4日〔1〕 ・『神奈川新聞』昭和58年6月4日〔2〕 ・『毎日新聞』昭和58年6月4日〔3〕 ・『朝日新聞』昭和58年6月8日〔4〕 ・『神奈川新聞』昭和58年6月8日〔5〕 ・「海中投棄規制条約発効後の自衛隊による化学兵器の処理状況について」（防・防 6.3.17）〔6〕 ・化学室担当者ノート「戦後における旧軍毒ガス弾等の処理の状況(14.6)」〔7〕 ・「『旧軍毒ガス弾等の全国調査』のフォローアップ調査について（回答）」平成15年10月23日〔8〕
追加資料	<ul style="list-style-type: none"> ・『平成16年度国内における旧軍毒ガス弾等に係る情報収集及び取りまとめ業務報告書』〔A1〕 ・教育機関の50年史〔A2〕 ・『平成16年度B/C事案における第2次地下水調査業務報告書』〔A3〕
平成15年度フォローアップ調査報告書の要約	<p>神奈川県茅ヶ崎市には、昭和58年6月2日に学校敷地内の工事現場から催涙手投弾等が発見され、自衛隊によって処理が行われた事案がある。</p> <p>発見・被災・掃海等処理情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昭和58年6月2日に、教育機関の施設新築工事現場掘削作業中に300発以上の手投弾らしいものが発見された。そのうちのガラス容器1個が割れて、作業員1人が手に軽いやけどをし、作業員2人が目に痛みを訴えた。同年6月3日に県警保安課と茅ヶ崎署は、缶は旧軍の青酸ガス手榴弾であると判断した〔1〕〔2〕〔3〕。しかし、同年6月7日に行われた自衛隊等の調査により、塩素系の催涙ガス手榴弾と断定され、同年6月2日からの累計で119個の塩素系の催涙ガス手榴弾と86個の小銃弾が発見された〔4〕〔5〕。同教育機関敷地は、昭和20年5月から4ヶ月間、旧海軍砲術学校があった場所で、催涙ガス手榴弾等はこのとき埋められたものと見られる、と記載されている〔1〕〔2〕。 ・神奈川県警本部長の要請で出動した自衛隊は、昭和58年6月2日に発見された催涙手投げ弾等109発を同月8日に演習場で晒粉乳液により除染した〔6〕〔7〕。 <p>現在の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在は、教育施設が建っており、敷地内の井戸は、飲用には利用していない〔8〕。

	<p>その他情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旧海軍砲術学校の存在については、学校そのものが存在しないとの情報があるが〔 8 〕、催涙手投げ弾等が発見された教育機関の記録では、旧海軍砲術学校に接收されたとの情報もある〔 11 〕。
<p>新たな情報</p>	<p>廃棄・遺棄情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・催涙手投弾等が発見された教育機関の敷地は、以前養護施設の土地であった。養護施設の施設長は、旧海軍砲術学校に徴収された後にも用務で施設に残留した者が、兵隊が毒ガスを埋めていったという話を聞いたことがあると言っていたのを記憶している、と証言している〔 A 1 〕。 <p>その他情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・養護施設は、大正 6 年 7 月同所に創設され、昭和 20 年の終戦間際には、建物と敷地全部が旧海軍砲術学校に接收され、「終戦直前の 4 カ月余りの間、アメリカ軍の上陸阻止のために当初は戦車隊、後に毒ガス隊が施設を使用して、兵員や兵器が配置されている」と記されている〔 A 2 〕。 ・現在の教育機関では、多くの校舎が建設されているものの、一部には土地改変がされず当時のままに残っている場所もある〔 A 1 〕。 ・発見場所周辺は、海岸線から山側にむかってゆるやかな起伏が連続しており、催涙手投弾等は、当該施設の本館建設のために土地を平地にする際に発見されている〔 A 1 〕。 ・環境省が実施した地下水調査の結果、毒ガス関連成分は検出されなかった〔 A 3 〕。